

## 札幌ロータリークラブ例会講話



例会日時 令和7年4月9日(水) 12:30-13:30

例会場 札幌グランドホテル

### 「挨拶」

札幌国際大学観光学部 教授の山田芳之でございます。

この度歴史と伝統・格式のある札幌ロータリークラブ例会にて卓話のご指名を賜りまして誠に有難うございます、貴重な機会にご指名頂きました会長様を始め会員皆様に感謝申し上げます。

限られた時間でございますので早速始めさせていただきます。

### (本文)

例会卓話テーマを「北海道の観光情勢」として次の4項目をお話させていただきます。

1. 観光産業とホテルビジネスの関係、2. インバウンドのマクロマーケット、3. 国内ホテル開発動向、4. 観光人材育成と課題の順に、先ず観光産業とは何か？からお話し致します。観光産業と言いますと漠然とした産業と思われることと存じますが、関係する業界は幅の広い分野がございます、旅行業・運輸業・宿泊業・飲食業・観光施設・物産販売・地域観光・国際観光など地域の観光資源を用いて観光客を誘致もてなす業界として、全ての業界が密に関係しています。この中で宿泊業の役割は、旅と地域を結び付け流動人口・交流人口をその地に留める重要な役割があり、消費による地元1次産業への波及効果、サービス人材の雇用、地域への納税など経済効果が大きく期待できる業界であります。日本の観光産業の構造を見た場合、宿泊・運輸・旅行業界で観光産業売上高の過半数を占めています、各地域では商品コンテンツづくり、まちおこし事業などの担い手育成に真剣に取り組んでおられます。

次にインバウンドに視点をあて観光立国の背景を少し遡り説明致します。国として観光立国を目指す構想が発表されたのは2003年小泉内閣の時代に国策として「ビジットジャパンキャンペーン」が策定されました。対象国に対し観光ビザ規制緩和、相手国へのPR活動、訪日客のためインフラ整備が行われました、2010年には訪日外国人旅行者1,000万人を目指す計画を発表、しかし世界規模の金融危機や東日本大震災の影響で大きくブレーキがかかりましたが、2013年に1000万人を超えるまで回復、同じ2013年に東京オリンピック開催が決定し訪日客も一層加速していきます。

2019年コロナ禍前と2024年を比較しますと約3686万人となり500万人増加、一方で観光地ではオーバーツーリズム問題が散見されています。この環境下の中でホテルの新規開発も2013年を機に急激に増加へ転じました。2023年現在全国の宿泊施設数は約57,000施設に増加、地元北海道では約3000施設がありその中心は札幌・ニセコの増加が目を引きまます。2024年以降のホテル計画数は全国で394、そのうち43が北海道での計画です。ホテルの総体的な施設数は右肩上がりに増えその勢いは今後も持続するでしょう。現在どの業界でも人手不足が叫ばれています、ホテル業界の大きな課題は人員不足ではなく人材不足と言われています。こうしたインバウンド増加やホテル開発の中、国内大学で2番目に観光学部を設置した本学の役割は高まり、観光産業界へ輩出する高度人材の育成に一層力を入れてまいります、今後とも経済界からのご支援をお願い申し上げます例会卓話とさせていただきます。

ご清聴誠にありがとうございました。